

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

特集

障害者は外に出よう
～港区歩いて川柳を～ 2

外に出よう
実行委員長挨拶、
障害者自立支援法
利用者負担軽減について . . . 7

街頭署名、署名報告 8

虫めがね 9

虫めがね、実習所報告 10

学習会 11

夕会、寄付のお礼、
和栗さん連載
休載お知らせ 12

小野塚さん連載 13

太田稔さん連載 14

Tシャツタオル
販売始めました 15

編集後記、スケジュール 16

2008年
6
月号



特集

障害者は外に出よう ～港区歩いて 川柳を～



梅雨がようやく明け蒸し暑い夏が近付いて来ます。これからはコマメに水分を取り、熱中症に注意しましょう。

三木 直人



6月1日、15回目の外に出ようが行われました。本来は前月の25日の予定でしたが、雨の為、この日に順延となりました。延期となったにもかかわらず、多くのボランティアさんの参加が叶い、例年通りの楽しい一日となりました。今年は港区散策ということで、六本木ヒルズやミッドタウン、赤坂サカスなど港区の観光スポットを各班それぞれに見て廻りました。僕が参加した班は赤坂サカス～日枝神社～麻布十番というコースでした。日枝神社では日曜ということもあり、神前結婚を行っている新郎新婦を見ることができ、さわやかな気持ちになることができました。

昨年から行事委員としてこの行事の企画会議にもかかわっているのですが、今回の雨天順延の対応には代表や担当職員が大変な苦勞をしている様子を何度も見ました。無事に終わることができほっとするとともに、本当にお疲れさまでしたと感謝の辞を述べたいと思います。そして、順延にもかかわらず、多くのボランティアにも参加してもらったことにも同時に感謝を述べたいと思います。

みなさん本当にお疲れさまでした。来年もまた楽しい外に出ようとなることを心より願っています。

小野塚 航



カレッタ汐留 亀の噴水



天気が良くて、楽しかった。赤坂サカスから、銀座線に乗って、汐留に行った。そこで昼食を食べた。その後、新橋の方に出て、四十七階のビルの、展望台を見学してから、噴水を見てから集合場所に行きました。一番よかったのは、ふきあげる高さが変わる丸い噴水です。

北原 明美

外に出よう感想 ～立教BSA第8支部～

今回の外に出ように参加させていただきました立教大学2年の市川です。昨年の外に出ようにも参加させていただきました今回が2度目の参加となりました。昨年は初参加ということで、メンバーの方々に色々ご迷惑をおかけしてしまいましたが、今回は2度目ということで自分ではいくらかマシになったかなと思っていたのですが、甘かったようです。実際に参加してみると、慣れない車椅子の操作に悪戦苦闘し、食事等の介護もほとんど手伝えなかったりと反省点がたくさん出てきてしまいました。

こんなことを書いていると、じゃあ辛かったか？と聞かれそうですが、そんなことはなく、いろいろなところでメンバーの皆さんに支えられながら楽しく参加させていただきました。来年こそ、少しでも周りのメンバーを支えられるように精進したいと思います。

立教大学BSA第八支部 市川 智浩



外に出ようボランティアとして参加しました立教大学3年の安田です。今回で3回目の参加となりましたが、まだまだ至らないところばかりで、いろいろご迷惑をかけてしまったと思います。

自分の中ではもう慣れてるように思ってしまったあまり気構えずにいたのですが、いざ当日になってみると、赤坂ではその名前通りの坂道の多さに体力を奪われ、日頃の運動不足と暑さも相まって足下があまりおぼつかなくなり、フジテレビにつく頃にはフラフラになってしまい、昼食のときも食事介護をただ眺めているだけの自分の不甲斐なさから自己嫌悪に陥ってしまいました。そんなとき、メンバーから励ましの言葉をかけてもらい、「励ます側が励まされてちゃだめだ！もっと頑張らなければ！」と、またやる気を取り戻し、最後までやり遂げることが出来ました。

外に出ように参加するたびに、自分がちょっとずつ成長する実感できてとても嬉しいです。来年も是非ごいっしょさせてください！

立教大学BSA第八支部 安田 丈



恥ずかしいお話なのだが、僕は今回、風の子会はもちろん、はじめてボランティア活動自体に参加した。正直行く前の日の夜は、それはドキドキものであった。

自分は足手まといになるだけではないのか、むしろ障害者の方に怪我をさせたり、いやな思いをさせるのではないのかと尽きぬ悩みが夜を更けさせていったなどというのは、今となっては笑い話でしかない。

そんな僕であったが、実際に参加してみて分かったことはただ一つ、考えすぎないで、まず行動してみる事これが大事なんだなと思った。一緒に歩き、一緒に食事をし、会話をすること。大切なことは、ただ普通のことを普通にすることだけなのだなと感じた。しかし、だからこそ、それが一番難しいのだとも思った。

そして、実際に町を歩いてみて、一見どうもない段差や勾配など車椅子の方にとってはとても大きな障害なのだと気がつかされた。バリアフリーに見える町も全くそうではないのだということも教えてもらった。また、職員の方が、障害者の方の話す言葉を真剣に一生懸命に理解しようとしていた。そして、相手が伝えたいことを感じ取ろうとしている様子を見、僕が普段忘れていた事、何も考えずにやっていた事一つを挙げても、それは当然の事ではないのだということにも気がつかされた。また、お互いが真剣に全力でぶつかり合っているからこそ、それが通じ合ったときの両者の喜びの顔、これは今回僕が一番記憶に残ったことである。

結局、自分は今回参加してみて特に何かをしてあげられたか。むしろ、このような考え方に立つことが愚問であることに気がつかされた。それが、最大の収穫であり、お手伝いをしたというよりも、勉強させていただいた、そんな感じです。これからも、様々なボランティア活動に従事することになると思いますが、今回はその大前提を覚えてもらえた、とてもためになる企画でした。本当に有難うございました。

立教大学BSA第八支部 興石 祐輝

外に出よう感想 ～リーダー編～

2008年6月1日（日）に「障害者は外に出よう“港区歩いて川柳を”」が行われました。私は一班で、新橋（朝の集合地）→竹芝→芝弥生会館（昼食：バイキング）→浜離宮〔中央区〕→汐留→麻布十番→ゴールのコースを皆さんと散策しました。

事前集会があるとは言え、今回初めて一緒になった人もいるのに、当日は、ほんの少しの時間を経ただけで、前からの知り合いのように話がはずみました。

いただきます



昼食はバイキングで、好きなものを好きなだけいただきました。料理を取るときは、助け、助けられもありますが、皆さん、食事を堪能され、別腹のデザートまでしっかりいただいていたました。

浜離宮では、庭園の風景を愛でるだけでなく、自然と戯れたり、また景色とは関係なく(?)それぞれの昔話に花が咲いたり、のんびりと穏やかな時間が過ぎていきました。

最後に麻布十番の街も歩く予定でしたが、到着が遅くなり、これはできなくなりました。{ただ、解散後、個人的に散策した一部の人もありましたが(笑)}概ね、予定した行動が取れ、楽しい一日になりました。

この行事に参加して思うのは、公共交通機関にはまだまだバリアが残っているなあ…ということです。車いす利用では、本当にそう感じます。車いすの利用者が一人の移動ではそうは感じなくても、今回のうちの班のように五人の車いす利用者がいると大変になります。例えば駅施設のエレベータは、良くて車いす利用者お二人に乗ってもらうのが精一杯の広さで、待ち時間が多くなります。大きなエレベータになれば良いなあ、こういう機会に思ってしまう。

JRの駅は古くからあるということで仕方ないのですが、今回利用した新橋駅には、エレベータがなく、五番線（山手線内回り）・六番線（京浜東北線北行き）ホームには、エスカレータでさえ、一つ（昼間は上り）しかありません。せめて上下の二つがあれば良いのになあと思ってしまう。というのは、一緒に行動した方は少しの距離は歩いて移動できるので、下りのエスカレーターがあれば階段を降りてもらわなくても済んだのに、それができなかったからです。



これまでに何回も参加していると、以前一緒にの班になった人とゴールで再会でき、話ができるので、それも「外に出よう」の魅力の一つで、続けて参加するんだろうと思います。来年もまた参加できればと思っています。

市川 昌弘

このイベントに参加して五年になります。毎回違う目的地と新しい出会いが楽しみです。今年も、港区内地元ながら東京タワー↓六本木ヒルズ↓麻布十番と指折りを巡るコースです。田町駅に集合して自己紹介。出発です。東京タワーまでは、車椅子の押し方の勉強です。実際に押してみても手に伝わる驚いた様子の学生ボラさん。いい経験になったそうです。ゆっくりテンポで歩くことで普段は見落としそうな物を沢山発見出来ました。「大丈夫ですか?、ありがとうございます。」とお互いに声をかけ合いながら、最初の目的地に着く頃には、すっかり仲良しになれます。タワーからヒルズまでの坂道も出来上がった信頼関係でスイスイ進みます。素晴らしい事だと思いました。他ではなかなか味わえないでしょう。心地良い疲れを、麻布十番名物のアツアツのタイ焼きで癒して満足外気な笑顔。笑顔。

来年も新しい出会いを楽しみたいと思います。



小野塚 智香子



外に出よう「港区歩いて川柳を」各班の行程

1 班



新橋駅集合 → 竹芝散策 → 芝弥生会館
 (昼食) → 浜離宮散策 → 麻布十番散策
 → 一の橋公園

2 班



日の出棧橋集合 → お台場散策 (昼食)
 → 浜松町 → 麻布十番 → 一の橋公園



3 班



田町駅集合 → 東京タワー散策(昼食)
 → 六本木ヒルズ散策 → 麻布十番散策
 → 一の橋公園

4 班



ミッドタウン集合・散策(昼食) →
 六本木ヒルズ散策 → 一の橋公園



5 班



白金台集合 → 自然教育園散策 →
 庭園美術館散策 (昼食) → 芝離宮散策 →
 麻布十番散策 → 一の橋公園



外に出よう「港区歩いて川柳を」各班の行程

6 班



麻布十番集合 → 溜池山王 →
赤坂サカス散策（昼食） → 汐留散策
→ 一の橋公園

7 班



赤坂サカス集合（昼食） → 日枝神社散策
→ 麻布十番散策 → 一の橋公園

8 班



溜池山王集合 → 赤坂サカス →
麻布十番散策（昼食） → 一の橋公園

9 班



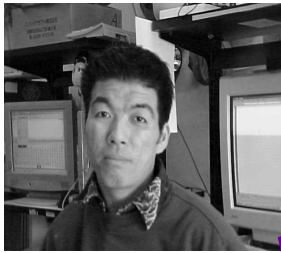
大門駅集合 → ミッドタウン散策 →
六本木ヒルズ（昼食） →
麻布十番商店街散策 → 一の橋公園



本部の皆様
が各班の周辺を見
ていただきありがとうございます。
そして、お疲れ様でした！！



皆様ありがとうございました。そして、お疲れ様でした！！



**来年もみなさまと会える日を楽しみにしております。
 よろしくお願ひします。**

外に出よう実行委員長 三木 直人

- 参加協力団体名
 麻布十三倶楽部様
 車いすと共に歩く会様
 東京赤坂ライオンズクラブ様
 ヒューマンライオンズクラブ様
 港区肢体不自由児（者）愛の会様
 港区重症心身障害児（者）を守る会様
 港区身障通転者協会様
 港区中途障害者協会様
 立教区S A第八支部様

（港区歩いて川柳を）
 当初予定していた五月二十五日が、あ
 り行くの天気だつたので、予備日の六月
 に障害者とボランティアさんとの交流が
 つまりとれ、とてもいい日になりました。
 健康者が普段、見逃しがちなことでも
 の障害者と歩くことにより、理解も
 した。意外と多い。放置されたままの
 こともあり、目線も車や道路も、悪
 くない。でも障害者には、また健康者
 のことも。障害者同士でも、お互い
 が、取り組む。この行事は、いつも
 が、と。ごさつみだつた。強行する
 り加のま通こさすの健つめにくに
 がしあるすでもとなどいた障常ぶりに
 がとて取で障も障あり害者者者者
 とく取す者害者者者者者者者者者
 ざりすの者者者者者者者者者者
 いづみでには。目線もまた健康者
 まだこの困ることも。健康者も
 ボラン強く事とは。常者やも理解
 ンく事思はと車ーマも入つても車
 テい続も者とや道も事つても車
 アまけまにわか事つても車
 のす。いま。情ててても車
 皆。く。あはくのいも
 さん回価あはくのいも
 ン回価あはくのいも
 あ参値り普る悪まら

7月から利用者負担が軽減されます！

2007年10月から全面施行された障害者自立支援法が、同年12月の「特別対策」に続き2008年7月より「緊急措置」が実施されます。これにより、障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスを利用しているみなさんの自己負担（風の子会やヘルパーの利用料）が軽減される人たちも多いと思います。
 ここで、簡単にポイントを説明します。

①所得区分の見直し

世帯の収入（住民票上の世帯全員の収入） から 個人の収入 へ

今までは、所得区分を世帯の収入から決めていました。障害のある人が一緒に暮らしている家族の収入が多ければ、自己負担上限額も高くなっていました。この範囲が見直され個人単位（夫婦は一世帯）になったことで、現在、所得区分が一般世帯だった多くの人たちの所得区分が低所得になると思います。

②応益負担上限額の引き下げ

低所得1，および2の方の負担軽減（ひと月あたり）

通所のみ 3750円 → 1500円

居宅+通所 6150円 → 3000円

①で説明したとおり世帯の範囲が個人となったことで、多くの障害のある人が低所得1もしくは2になることと思います。更にその上限額が上記のように軽減されます。

※問題点※

資産要件の見直しはされていません。貯金や土地など財産を持っていると、負担は軽減されません。また何よりも、「緊急措置」の来年度以降の継続は明言されていません。今年度限りになる可能性があります。一年もしないうちに元に戻ってしまうとしたら、応益負担廃止を中心とした障害者自立支援法改正を求める私達としては、何の運動の成果を上げたとも言えません。障害者福祉が後退しないために、抜本的改正を求めた運動を今後も継続していく必要があると思います。

以上のような問題点はありますが、今回の「緊急措置」は一時的なものとはいえ、利用者負担が軽減されるということで、一歩前進だと思います。是非「緊急措置」による負担軽減を申請し、活用してください。

風の子会 所長・丸岡

5月16日・田町駅前街頭署名募金報告

この日は凄く暑い上にほぼ無風の日でした。故に日陰でも蒸し蒸ししていた為ボーっとしたりして、僕にとっては結構辛かったです。途中で日なたに移り活動をしました。日陰でも辛い状況なので日なただとどうなるかと思っていたら、移ったとたん頭がグラグラし、直ぐに喉が渇く程でした。

この様な暑い日に募金・署名する為に足を止めて下さった皆様、有り難う御座いました。そして、暑い中頑張って活動をした皆様、お疲れ様でした。

田村 亮彦



先月に引き続き2回目のきょうされん署名活動を、田町の駅前で金曜メンバーで5月15日に行いました。左右の歩道に二手に別れて始め道行く人達に、職員が趣旨を大きな声で話しメンバーが「お願いします」と、道行く人達に呼びかけて頭を下げました。一時間半ぐらいいやりましたがサラリーマンが多くて、みんな忙しそうで誰も足を止めてくれません。一時間ぐらいたって人通りがまばらになってきたなと思っていたら、一人二人と立ち止まって署名をしてくれたり、募金をしてくれたりしてくれる人が増えてきました。作業所に帰り募金箱を集計したら3万円になりました。皆様の暖かいご協力により、前回の募金金額と合わせると、65,250円になりました。全国の共作連の仲間達も喜ぶと思います。どうも有り難うございました。

太田 圭子

振替払込請求書兼受領証	
口座番号 001603	加入者名 きょうされん東京支部
金額 541392	千 百 十 万 千 百 十 円 82764
依頼人 特定非営利活動法人 風の子会	日 附 印 20-05-30
料 金 330	高輪郵便局 (01070)05 N91590010
備 考	

記載事項を訂正した場合は、その箇所を訂正印を押ししてください。
この受領証は、大切に保管してください。

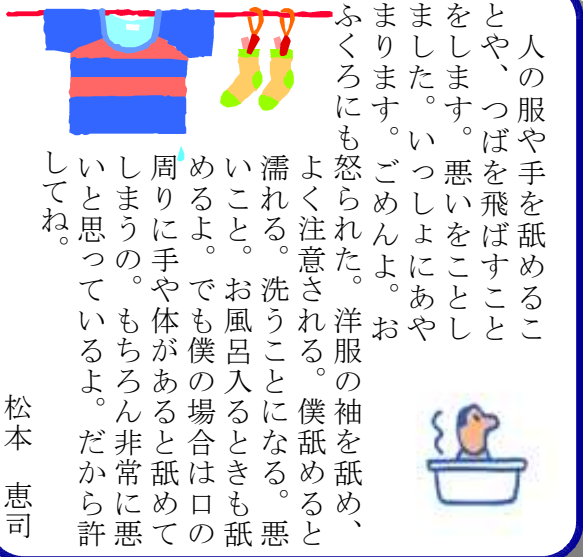
前月号で風の子会に寄せられました署名・募金の総額をお知らせしましたが、署名はきょうされんでとりまとめ国会へ提出、また募金は五割をきょうされん本部、二割をきょうされん東京支部の活動資金として送金しましたことを、ここにご報告いたします。残り三割は風の子会の運営資金として大切に使用させていただきます。

問題点多き障害者自立支援法ですが、この七月からは「緊急措置」が実施されます。所得区分の見直しと応益負担上限額の引き下げにより、障害のある人たちと、その家族の負担はかなり軽減されました。

しかし、これはあくまで今年度に限った措置であり、厚生労働省は来年度以降に關しては何の約束もしていません。資産要件に關しては今も見直しはされていません。

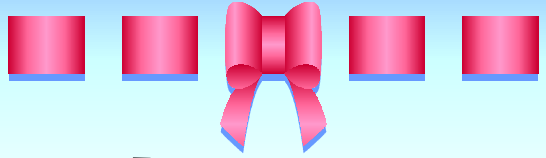
障害者自立支援法の根本に「応益負担一割の原則」がある限り、障害を持って生まれただけで、生活に必要なサービスを受けるのに負担が強いられたる法制度自体の見直しが必要と考えます。その抜本的な見直しが行われるまで、今後も障害者自立支援法の改正を求める運動を続けていこうと思っております。ご支援・ご協力の程、是非ともお願いいたします。

丸岡 秀明





人の服や手を舐めることや、つばを飛ばすことをします。悪いことをしました。いっしょにあやまります。ごめんよ。おふくろにも怒られた。洋服の袖を舐め、よく注意される。僕舐めると濡れる。洗うことになる。悪いこと。お風呂入るときも舐めるよ。でも僕の場合は口の周りに手や体があると舐めてしまうの。もちろん非常に悪いと思うているよ。だから許してね。

松本 恵司




虫めがね


「失敗談」というテーマ二回目です。メンバーはどんな思い出を語ってくれるでしょうか。担当者は太田稔さん、松本さん、吉田さん、和栗さんです。さあ、彼らの失敗談を笑い飛ばしましょう。

今日も、運動会の練習で、体育館でフォークダンスを小学一年生の児童たちが踊っている。ピアノは、壇上の隅にあり、弾いている私には、児童たちの踊っている様子は、見えない。そんな時、何か「キヤー、キヤー」と騒いでざわざわとしている物音に、私は、急いでイスから、立ち上がり、生徒の円の中へ入っていった。「何があったの？」と聞いたが、みんな、下を向いて、目をあわせようともしない。その時、私の足元にフラフラと歩いてくるゴキブリを発見！細長く茶色でかなり大きい。これで騒動の原因がわかった。円の内側にいるゴキブリをふざけて、蹴り、女子の足元へ行くようにしていたのだ。ダンスどころでは、なかったのだ。それで仕方なく、強気になり、（本当は、死ぬほど嫌いなゴキブリを、）素手で、握り体育館の外に運ぼうとした。そして生徒たちに背中を向けて出て行こうとした、瞬間、私の肩までゴキブリが上ってきたのだ。しっかりつかむのが、イヤで、ゆるく握っていただけだったから、仕方がなかったのだが、その瞬間、大声で、「ギヤー」と叫んでしまった。その放課後には、落ち込んでいる私を学年主任（お局様）が、「どうして貴方は、いつもそうなの？」と怒りをあらわにしていた。翌日からは、噂は生徒の父兄へと波及し、あっという間に「ゴキブリ先生」と呼ばれるまでになっていた。あの時、背中を向けて叫んでいたことは、正解だったと少しだけ自負している。（とは、今だから言えること。）



吉田 久代



僕が、十五年くらい前の話ですが、十二月ごろ当時の職員さんだった、浦井君と、来年のカレンダーを、飛び込みで、売り歩いていった頃のことでした。今のようにな「風の子会」が、知られていなかったときのことで。カレンダーが売れなくて、困っていた時代でした。それで僕と浦井君が、表に出るセールスをやったのですがなかなか売れません。やけのやんぱちになつて看板も見ないで飛び込みました。「カレンダーはいかがでしようか？」するとそのご主人は笑いながら言うには、「お客さん、うちもカレンダーを売っているんですよ！」

太田 稔



恥を忍んで私の失敗談と言っても、私一人では、到底出来ない 共犯者が居る、新妻の世津子であるが、この時点では まだ 本当の意味での新妻ではなかったのである。その理由をこれから お話しします。お話は、昭和二十六年 五月二十五日、奇しくもこの日は、旧海軍記念日で、大安吉日の良き日に、私と世津子の二人は、一年半の交際の末に、ようやく結婚に辿り着くことが出来ましたが、ごく内輪だけの結婚式でしたのに、慣れない事で、夫婦固めの三三九度の杯と披露宴で、緊張の連続で、二人とも疲れてへとへとで、式がお開きになると、二人は 心配して、父と母と姉夫婦が、二人を抱きかかえて、六階の部屋まで連れてって来て、あとはお二人でご自由にどうぞと言ひ残して出て行った。二人を待っていたのは、

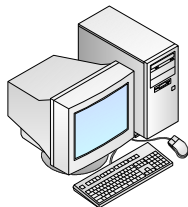


特別に頼んだ年輩の部屋付きの女の従業員だった、疲れたときはお風呂が一番と、風呂に入れてくれて、二人は寝込んで朝起きて二人して気が付いた。二人はまだ夫婦のちぎりを結んではいなかったことに。

和栗 頭太郎

私達、港南実習所では普段はパソコンを使って、毎月発行している機関誌作りに取り組んでいます。機関誌を出すには色々な準備を経てやらなければなりません。まずは、みんなで毎月載せる記事を話し合いをして記事の内容を決めて、担当者を決めて、期日までに文章を集めて、機関誌の発送日を決めて、それでようやくみなさんの、お手元に届くという事になっていきます。みなさん、長年にわたり当会報をご購読下さいましてありがとうございます。

只、一つ問題点があるとするれば、僕達が使っているパソコンのどれもが古いということです。



天海 隆一



福島 基子

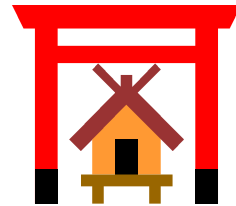
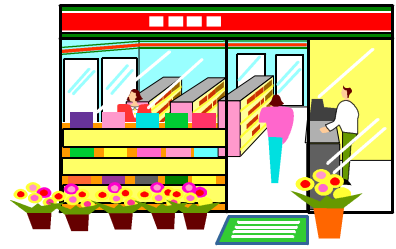
高浜実習所では牛乳パックの再利用で、パルプ裂きを含めて、手漉き和紙を作っています。わり箸の袋入れもしています。今後は特にやりたいことはありません。



学習会報告

5月7日【お台場レク】

水曜メンバーでお台場へ散歩に行きました。何人かずつでグループに分かれてアクアシティやデックスで、食事やウィンドーショッピングをして、楽しい一日を過ごしました。お手伝いいただいたボランティアさんありがとうございました。



5月21日【映画鑑賞】

みんなで「タッチ」という、有名な高校野球マンガの実写版（長澤まさみ主演）のDVDを見ました。

お話が短縮されていて実写なので、マンガ版やアニメ版が好きな人には不評だったようですが、野球好きでいたく感激していた人もいました。

5月14日【港区について】

今年の「外に出よう」は港区内散策なので、港区について勉強しました。

行事委員の2人（太田M、小野塚）が中心になって、港区の特徴、周りは何区に囲まれているか、坂の数や橋の数、名所・史跡や歴史などについて、クイズ形式で楽しみました。



5月28日【算数・あるなしクイズ】

田村君が先生になって作った算数の勉強をしました。数独（ナンクロ）の問題はムキになって解いている人たちもいました。後半は、2チームに分かれて、あるなしクイズをしました。最後の問題にボーナス点を付けたので、大逆転がありました。

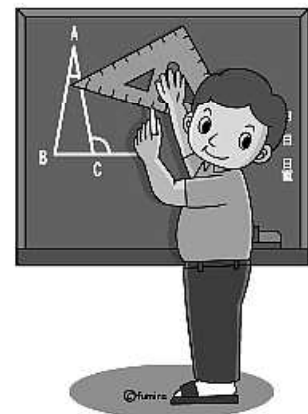
6月4日【予定決め】

夏休み前までの水曜日の学習会で何をやるかを決めました。

人気はあったけど、難しいということで取りやめになったものもありますし、新しい学習？のアイデアが採用されたりもしました。

「歌と踊りのつどい」も近いので、その練習も予定に入れました。

担当・太田 圭子



夕会だより



五月一日【歌と踊りの集いについて】

七月十二日(土)に、麻布区民センターで「歌と踊りの集い」が行われます。前回の夕会で、歌と踊りの集いに参加をすること、内容の話し合いをして、氷川きよしの「きよしのスンド」節」を行うことになり、オペレッタ(小芝居)をするところまで決まりました。今回の夕会では、氷川きよしのCDを聴きながら、皆でいろいろと意見を出し合いました。その意見をまとめてくれるのは、職員の高原さんと小林さんです。今年の実行委員の二人ですので、どのようなオペレッタにするか楽しみです。

五月二十四日【歌と踊りの集いについて②】

前回の夕会で話し合いをして決めた「きよしのスンド」節」の続きを行いました。オペレッタをどのようにするかを、皆で意見を出し合いました。主人公はいるか？いや、どのようなセリフがいいのかについて話し合いをしました。この話し合いは次回へ続きます。



寄付のお礼

5月3日～6月7日

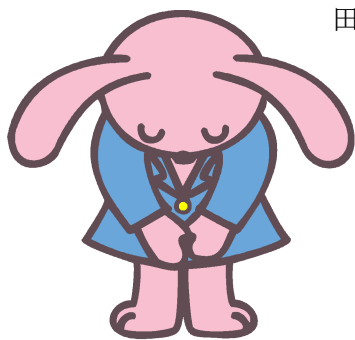
ご寄付を下さった方

小倉英克様



賛助会にご賛同をして下さった方

森部様 相蘇正義様 綱島辰也様 右田美智子様・磨子様
松本成子様 内田茂様 吉水和男様 末吉ミヨ子様 木田節子
諏訪敏子様 三木順子様 原田洋子様・太郎様 植田恵美子様
田中マサ子様 黒沢フミ様 大内滋子様 中井英代様 山形和子様
大野誠様 渡部一元様 湯川揚子様 丸毛波津様 鈴木謙一様
中山進様 神谷之和様 千葉愛子様 塩崎良子様 小倉英克様
長坂富沙子様 匿名二名



ありがとうございました

お知らせ

大変好評を博しております、和栗頭太郎さんの連載「シベリア出兵秘話」は、今月号休載とさせていただきます。来月号には再開予定ですので、しばらくお待ち下さい。

また、各連載のご意見、ご感想等お待ちしております。



わたるのドミトリライフ

【ドミトリとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第10話 麻雀という遊びを覚える

僕がまだ寮に入ったばかりの頃、先輩の部屋をあちこち見回っていると、ある部屋で麻雀をしている所に出くわした。それは、すでに卒業したOBが在寮生を捕まえて卓を囲んでいるという感じだった。そのOBはどうやら寮にしょっちゅう顔を出しては後輩達を呼び集めて麻雀をするという、少々厄介な人らしかった。まだ1年の僕はそんなことは知るはずもなく、興味深い顔をしてその卓を見学していた。煙草をくわえながらそのOBは僕にも気さくに話しかけてくる。「名前はなんていうんだ?」「出身はどこだ?」等等。綺麗に並べられている牌を見ながら僕も答える。しばらくすると「おまえも打ってみるか?」と聞かれ、僕は喜び勇んで卓に入った。

今にして思い返せば我ながら本当にあの頃は無茶をしていたものだ。卓に入ったのはいいが、その頃の僕は麻雀の点数計算もできなければ役も二つ三つくらいしか知らないという全くの素人だったのだ。先輩達の遊びの輪に入れた事と、僕を普通に受け入れてくれたそのOBの気持ちがとてもとても嬉しくて、僕は夢中でその場を楽しんだ。

すっかり麻雀の虜になった僕は、どこかの部屋でやっているぞというにおいを感じると一目散にその部屋に駆けつけるようになった。隣の先輩（以前に紹介した関西のおにいちゃん）の部屋でジャラジャラジャラと音が聞こえるとすぐに部屋へ向かう。その部屋は先に書いたOBもよく来るので、次第に僕も顔馴染みになっていった。そのOBが打つのを背中越しにみながら僕は必死に役づくりを覚えていった。そのOBは麻雀がとにかく強かった。どんなクズ手でもちゃんとまとめられるし、いつも場の雰囲気というか空気を圧倒していた（彼が大負けをしたところを僕は見た事がない）。時々僕が打たせてもらおうと、彼が僕の後ろにどっかと座って打ち方や役づくりを教えてくれた事もあった。「そこは違うだろう!」「長く考え過ぎだ!」ととにかく厳しい教え方だったが、僕も必死になって覚えていった。

時には5階の部屋まで行く事もあった。その部屋の4年生とは飲み会などでよく顔を合わせたりして気が合っていたので、麻雀の場にも気軽に入っていった。その先輩が打つ麻雀の場はとにかく楽しかった。くだらない冗談やお気に入りのかわいい後輩の事などとにかく笑いが絶えなかった。麻雀というのは単にギャンブルというだけでなく、卓を囲みながらみんなであれやこれやと語り合う、いってみればコミュニケーションスペースのようなものだと思う。打ち方には性格が色濃くでていて、「ここではこいつは絶対ひいてくるだろう」「いや、こいつはもしかしたらつっぱってくるか?」というような探りあいをするのも、一種の楽しみなのだ。

1年の時は自分の部屋で麻雀をするなんて絶対にあり得なかったが、2年目は同じ学年の友人と相部屋になったということもあってか、次第に僕の部屋でも麻雀をするようになった。それが、この部屋が“溜まり場”となっていくきっかけの一つとなろうとは、その時の僕は知る由もなかった。

～ 第11話へつづく ～

母の思い出

第十一回

太田 稔

「お祖父ちゃん、お祖母ちゃん、稔や美知子をよろしくお願いします。特に稔の世話は大変だと思います、でも性格は普通の子供と変わらないと思います。ただ時々引きつけを起すことがあるのでその時は救命丸を飲ませてやって下さい」救命丸という薬は今でも売っていると思うが0歳から五歳くらいまでの幼児が飲む気付け薬である。母はこうして一回目の入院を九段下にある日本医大に入ったのだ。しかし日本医大にはその頃エレベーターがなく、しかも確か母の部屋は四階だったと記憶している。だから当然の事ながら見舞いにも行けない。仕方なく祖父と二人で母の手術の成功を祈るだけだった。手術はどうか成功したが母の両手はまるきり上にならなくなってしまったのである。無理にあげようとすれば激痛が入る。だいたい乳ガンを手術した人はあきらめて手などは上げないものである。だがうちの母は手を上げざるをえなかった。僕の介助をしなければならなかったからである。僕の介助をしながら、時々顔をしかめているところをみかけた。あれは相当手が痛かったのではないだろうか。その頃は勿論お風呂屋さんの巡廻サービスなどなかった時代である。母が僕のことを風呂に入れてくれる。入れてくれるのはいいのだが痛そう、本当のことを言えばお風呂なんか入れてもらいたくなかった。そして母がガンで入院したため、お店は人に任せっぱなしの状態である。人に任せるとおくと楽しいだろうと思いがちだが、大いなる間違いである。それはどういふことかと言えば、店の掃除が怠りがちになり、その結果店が汚くなる。汚い店などにお客が来ようはずがない。それにお客に対するサービスが悪すぎるのだ。どうせ他人の店だという感覚が働くらしい。というわけで店はボロボロ、お客はこないという有様。だから母は病院から退院したその日から店に出なければならぬと言われ始める。これでは手術の傷跡がなかなか治らないはずである。ところが母がお店に出た朝、家族は誰も言わないのに九時開店にも関わらず何処で聞いたかわからないが八時半ごろから表には数人のお客が並んでいる。母はこういった。「お客様というのがあるね。こちらが誠意を示せばちゃんとしてきて下さる」でも僕は母に本当はこう言いたかった。「お袋いくら何でも仕事をするのは早過ぎると思うんだけど」しかし母の氣力に圧倒されてしまい何も言えなかった。今頃になって書くのは変になるとは思うが母は、五、六回肺結核を患っている。その為仕事を本当ならば休みながらやらなくてははいけないと医者から堅く言われていたのだが、先ほどから書いていようにお客は店からはみ出すほどの活況ぶり。その為母はお昼、飯が午後の三時頃になることがざらだった。だから体を悪くするのは当たり前前の話である。そんな母が美容院を辞めようと決意したのは確か七回目か、八回目の結核に冒されたときのことである。「この職業は私のような体の弱い人には無理だということが解ってきた。だから来て下さったお客様には申し訳ないけれど体が付いていけないのよ」母はこう言って美容院を辞めたのである。美容師を辞めたある日、僕は母から相談を受けた。「稔、私でもやっていた仕事も思いついたの。何かというとそれは稔があまり好きではないおつとめかも知れないわ。それは銀座のクラブのホステスさん、あの職業なら椅子に座っておしやべりをしてれば、何とかお金になるからねえ、ただ私お酒が一滴も飲めないからそれだけが心配なの。でも夜のお勤めをする稔が可哀想でねえ」僕は思った。母にやれる仕事は残念ながら、夜の銀座勤めしかない、また書き忘れるところだったが、母は家を早い時期に建て直したかったのである。それでやむなくぼくの嫌いな仕事を選んだのだ。女で短い時間でお金になるといったらクラブのホステスさんくらいしかない。本当にいやだったけれど行つてもらう他はないだろうと僕は思った。

次回に続く

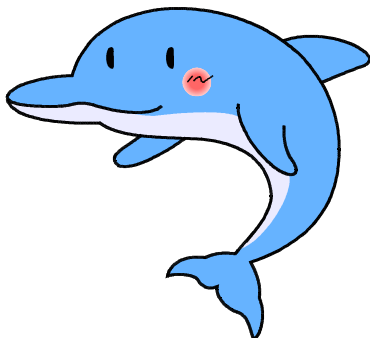
Tシャツ・タオル販売始めました！



私達風の子会は、きょうされん（旧称：共同作業所全国連絡会）に加盟している港区の障害を持つ人達が集まる共同作業所です。
さて、今年も私達が加盟するきょうされん夏季販売の時期がやってまいりました。
今回もきょうされんは、全国の作業所の仲間が描いたデザインがプリントされたTシャツやタオルなどを販売しております。
売上はきょうされんの運営資金としてだけでなく、会の仲間達の工賃として大切な収入源となっています。
会報誌に同封されたカタログを是非ご覧下さり注文いただけると、とても嬉しいです！宜しくお願いいたします。



詳しくはカタログを見てね！





す。帯のま
 ました。ばこ
 も。びは
 だ。ぼお
 め。がも
 と。しち
 言。しや
 わ。いの
 れ。携

右田 磨子

三木 直人



的には残すという最悪の
 パターンを嫌んでる人
 を見るのが嫌なだけです
 定品を抱え込みます。打
 お客としか思えませんが
 開策とかが限定句にし
 大抵の店がたい文句にし
 食とうたい文句にし



私の嫌いな物
 は、一・玄米、
 二・料理のバイ
 キング、三・料
 理の限定品で
 す。こう毎日々
 々食卓に玄米が
 のぼるんじや美
 味しいと言われ
 ても嫌いになり
 ます。見るのも
 嫌です。バイキ
 ングはなんと食
 く落ち着いて食
 べられません
 し、食べ切れな
 いほどの料理を
 持つて来て最終

今年も梅雨の季節がやってきました。この
 時期、皆さんは外出する時には傘を差したり
 雨具を着たりして鬱陶しいと思います。
 私はここ数年、手足にしびれが出てきて余
 り力が入らず感覚もなくなり、身体が思う様
 に動かなくなり、それだけでなく排尿困難に
 もなってしまうました。その為、車椅子に乗
 って居る時やベッドから車椅子への移乗など
 足の踏ん張りが効かず床にずれ落ちるので、
 外出時の恐怖感を持つてしまいました。
 外出の恐怖感を持つてしまいましたが、
 えて来ない」と思っている、
 風の子会に通所する事
 になりました。当会に
 参加する日は「余り雨
 が振らなければいいな
 あ」と思いました。

幸 高史



スケジュール

6月 1日 (日)	外に出よう
6月 2日 (月)	振替休日
6月 14日 (土)	総会
6月 25日 (水)	運営委員会
7月 1日 (火)	総務部
7月 12日 (土)	歌と踊りの集い
9月 6日 (土)、7日 (日)	一泊旅行

ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者
 天海 太田 久野 隆
 佐田 久野 彦
 田村 間
 三木 直亮
 幸木 史人
 和栗 頭
 太郎

太田 小野 塚
 松田 中野
 右田 本
 吉田 田
 久磨 恵
 代子 司 聡 航子 圭子

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

